

常任委員会行政視察報告

地域経済委員会

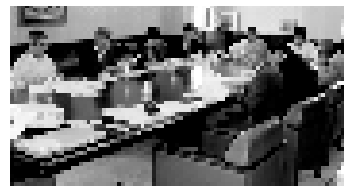
7月31日、青森県八戸市を訪問。現在本市が取り組んでいる「協働のまちづくり」について先進地八戸市で、その柱となる基本理念・推進体制・最終目的の協働実践にいたるプロセスについて説明を受けた。課題を乗り越え、市民と行政が一体となって推進、大いに成果があがったと説明を受けた。また公会堂の管理運営は、平成18年指定管理者制度の導入により、文化芸術の普及が図られた状況を視察研修した。



8月1日、岩手県一関市を訪問。同市の地域おこし・中心市街地活性化・空き店舗入居支援の3事業の推進状況の説明を受けた。本市においても、力を入れるべき課題であり、大いに参考となった。本市のまちづくりに生かしたい。

福祉環境委員会

8月21日、福島県二本松市を訪問。し尿浄化槽汚泥に加えて、生ごみも処理できる環境共生センターと最終処分場を視察した。建設に係る市民との問題や資金・運営面での課題等について説明を受けた。



8月22日、千葉県市川市を訪問。WHO健康都市宣言をし、各種ボランティアグループや団体に働きかけ、市民全体に健康維持増進を図っていた。

健康みはら21を策定し、事業展開を進めている本市にとって大いに参考になり、まちづくりに活用したい。

総務文教委員会

8月22日、新潟県三条市を訪問。全国に先駆ける「放課後子ども教室推進事業」の取り組みと、平成16年に全国優良図書館表彰を受けた市立図書館の視察を行った。図書館は、市民ボランティアとの協働により自主的で充実した運営が行われ、大変参考になった。



8月23日、千葉県東金市を訪問。市外の人に市の応援団になってもらう「東金市サポーター事業」、また「親業訓練講座」の実施について説明を受けた。24年間にわたり開講されている「親業訓練講座」は、よりよい子育て環境づくりに資する取り組みであると感銘を受けた。

成果のあるところ、情熱と知恵を持つ人材を生かした行政の真摯な取り組みがある、との思いを深くした視察となった。

建設都市委員会

8月22日午前、会津若松市を訪問。景観条例を中心に説明を受け、同市の景観形成に関する調査を行った。

条例に基づき、地区・歴史・自然景観の形成、更には各種の助成等、景観に関する事業は網羅的できめ細かなものであった。都市基盤機能向上と景観保全の両立が課題とされていた。

午後、喜多方市へ移動。景観形成の住民協定と景観に配慮した道路整備事業について説明を受けた。喜多方市に独自の条例はなく、県の景観条例に沿った施策を進めており、長年、観光行政に力を注いでいる。その過程で培われた、まちづくりへの住民意識と活力が、現在の景観施策に大きく影響しているとの説明が印象深かった。

